

庄内町第2回保健医療福祉推進委員会議事録

開催日時：平成30年12月6日（木）午後5：30～6：40

場 所：余目保健センター

出席委員：菅原源也、齋藤学、齋藤邦仁、日下部忠明、佐藤昭一、佐藤トク、庄司武晴、齋藤君夫、鎌田 剛、水尾良孝、高橋雅己、鈴木 愛、工藤むつ子、渡曾弘喜

欠席委員：なし

事務局：門脇保健福祉課長、佐藤主幹、鈴木課長補佐、阿部主査兼子育て応援係長、長南主査兼介護保険係長、佐々木主査兼地域支援係長、加藤主査兼福祉係長、齋藤主査兼健康福祉係長、池田保健師

内容は次の通り

- 1 開会 保健福祉課主幹
- 2 諮問 町長代理保健福祉課長より委員長に諮問
- 3 あいさつ 委員長

ただ今、諮問いただいた自殺対策計画は今年度中に策定することになっている。期限が限られているので検討よろしくをお願いしたい。今回はいつもと違い懇親会との2部構成。円滑な進行に協力願いたい。

- 4 協議 進行：委員長

(1) 庄内町自殺対策計画について 事務局説明

第1章計画の策定にあたって

第2章庄内町の自殺の現状と課題について

第3章自殺対策（生きる支援）の基本方針

第4章自殺対策の施策（生きることの包括的な支援）について

第5章自殺対策の推進体制について

（意見、質疑）

委員：プロフィール（自殺の特徴上位5区分）は、男性の同居者の自殺が目立っている。計画に具体策はあるのか。

事務局：男性高齢者は外に出て交流する機会が少ない傾向がある。見守りも含めて高齢者担当と連携していきたい。

委員：このようなチラシ（平成30年3月町広報折込）があるなら、近年は家族同居の自殺者もあり、家族がいるから安心できませんなど周知していてもいいのではないか。

委員：医療者向けのメール配信に、アメリカの職業別の自殺率がある。2015年のハイリスクは男性が建設、採掘、芸術、デザイン、スポーツ、メディア、女性は芸術、デザイン、保安整備、医療補助という報告がある。町は自殺者の職業別

を把握しているのか。町としても職業別は参考になるのでは。

委員：公募の委員として参加しているが、個人の意見として発言する。子育て支援、妊産婦の死因について9月5日のサンケイ新聞によると、自殺がトップだった。庄内町は0でうれしい。丁寧な支援が「自殺0」につながっている。ありがたい。女性の自殺率は低いが、50代急に上がる理由は何か。介護等が原因なのか。

事務局：データは警視庁がまとめたデータを厚労省が公表している。個々の原因は特定できない。自殺者は平均4つの要因を抱えていると言われている。原因は複合しており自殺者が全員遺書を残しているわけでない。病名がついている人についてはわかる方はいるが、要因を特定することはできない。

委員：計画については、高齢者、生活困窮者でよいが、これまで同様に若い女性への支援と子育て支援を継続してほしい。

事務局：今年度から子育て世代包括支援センターができ、更に充実した支援をはじめている。

委員：P27(5.連携支援のための体系)は実態が伴うのか。連携するための共通のツール仕組みがあるからできること。連携先をしっかりとっていくことが必要。

事務局：労働基準監督署など相談先の機関については、担当者レベルで図を作ったに留まり、相手先の確認をとっていない。庁内会議で考えた時、職員レベルでのイメージ図の案としてあったほうがいいのではないかと作成したもの。つなぎ先については今後検討が必要と考えている。案の段階にて公に出さなくてもいいものなのか。

委員長：相手先を整理したうえで、取扱を検討するように。

委員：P19,㊸のいじめ対策連絡協議会とあるが、自分は中学校の学校保健委員会の委員をしているが、身体の発育発達についての資料は出てくるものの、心の健康が含まれているはず。守秘義務はあるのだろうかがいじめや不登校の状況について共通理解する場でもいいのではないかと。いじめ対策連絡協議会にどのように関与しているのか。

事務局：教育課が担当している。詳しくはわからない。

事務局：昨年まで年2回子育て主幹が参加していた。今年度は年1回の開催になり、今後予定されており、まだ主幹は参加していない。構成メンバーは心の医療センター、教育事務所、学校長などである。いじめの調査を受けての会議。専門医からの情報提供や助言をいただいている。

委員：企業の職場、人員が不足している。ストレス、ハラスメントも深刻な問題である。カウンセリングの窓口を町、商工会で検討してほしい。

事務局：関連部署と連携しながらすすめていきたい。

委員長：P20の成果指標に「職場」を加えてみてはどうか。ハラスメントの研修等進

められるのではないか。

事務局：平成 35 年度までの間に窓口や相談体制を検討したい。

委員：老老介護問題は、(夫婦だけでなく)親子ともに老人という現実。2030 年 100 歳以上は 130 万人といわれている。法的に尊厳死を認めてほしい。丈夫で生きていけばいいが、そうでないまま生きるのは望まないと同年代の間では話題になっている。自殺しないで安心して生きられるようでありたい。

委員長：コメントとして伺う。

(2) 今後のスケジュールについて

委員長：事務局は早いほうがありがたいはず。次回の開催は 1 月 17 日(木)午後 1 時 30 分より。これが最後でパブコメの原案をまとめることになる。次回までに何かあれば事務局へ伝えてほしい。それをもって調整する。本来なら委員会として意見をまとめるところだが、答申案も回数に限られているので自分と事務局に一任ということでどうか。

委員：よい。

委員長：2 月下旬から 3 月上旬町長に答申したい。日にちは事務局で決めてほしい。冊子になるのか。

事務局：その予定である。尚、計画についての意見は 12 月中にお願いしたい。

(3) その他

なし。

5 その他

次回開催予定日 平成 31 年 1 月 17 日(木)で決定。案内を送付。

6 閉会 保健福祉課主幹

午後 6 時 40 分終了